



施設編 - セッション6

自己評価の質問

1. 子どもたちが、突然かつトラウマになるような形で実親と引き離されると、
 - a. 誰も信用できなくなるため、孤立して、養育者を無視するようになる
 - b. 養育者の存在をありがたく感じ、養育者に対して安定した愛着パターンをみせるようになる
 - c. 極端な分離不安を呈し、活動的な愛着システムが極端に働く
 - d. 上記のいずれにも該当せず

2. 実親に対する愛着パターンから、新しい養育者との愛着パターンを身に着ける傾向が見られる年齢は、
 - a. 3歳未満
 - b. 3歳以上
 - c. 21カ月以上
 - d. 21カ月未満

3. 愛情や関心を受けられない子どもが泣き止み、ごねる場合、
 - a. その子は、悲しみから解き放され、落ち着いていることを意味する
 - b. 愛着システムが停止し、うつと引きこもりの状態に身を任せていることを意味する
 - c. 子どもによって異なるため、何とも言えない
 - d. 養育者を好かず、養育者の関心を引くことに興味がない

4. 子どもたちが喪失という出来事から立ち直ることに役立つ接し方は
 - a. 物理的接触を奨励することである
 - b. 感情表現を豊かにすることである
 - c. (可能な限り) 同一の養育者が一貫してその子の世話をすることである
 - d. 上記すべて

5. 喪失からの子どもたちの立ち直りを促すには
 - a. 養育者が離れても、全く反応しないよう手助けする
 - b. 養育者が離れても、幸せでいられるよう手助けする
 - c. 養育者が離れると、パニック状態になり、泣きわめくよう手助けする
 - d. 養育者が離れても、極端に反応しないよう手助けする